

みみタロウ

日本語版 66号 2007年10月

滋賀県国際協会ボランティアグループ「みみタロウ」

大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2F

Tel/Fax: 077-523-5646

E-mail: mimitaro@s-i-a.or.jp

URL : http://www.s-i-a.or.jp



日本と僕たちのこと

福島 フアン

どんな人も一歩祖国を出ると外国人。同じように言葉や文化など外国人特有の問題を抱えることになる。今、いろいろな国籍の外国人が、日本の滋賀県で、時と空間を共に生活している。共に働き、挨拶を交わし、地震が起これば、“HELP!” “AYUDE ME!” “助けて!” と同時に口々に叫び、運命を共にする仲間だ。国籍は違ってもみんなの心が少しでも一つになるように、お互い言いにくいことも含め、正直に話し合い、理解し合うことが大切だという思いから、みみタロウに話すことにした。これをきっかけに、いろいろな国の人たちが意見を述べ合う場になればいい。

僕たち南米からやってきた者達のほとんどは、特別に日系であるということで日本に住んでいる。残念ながら周りからは、日本や日本人、ここでの生活に関する苦情ばかり聞こえてくるが、僕たち自身で日本に来ることを選んだ以上、自分たちの選択に責任を持たねばならない。だから、「文化が肌に合わず辛い」とか、「嫌いだ」と言うのはとても簡単だが、それは何か間違っている、と僕は思う。大人になってから他国の文化に飛び込むことには怖さがある。怖い時、人は「嫌い!」と言ってかたづけしてしまう。でもそうすると、自分で自分の周りに壁を作ってしまう、それ以上どうにもならない状況になってしまう。いろいろな国の人がお互いに理解を深めるには、そんな壁を作らず、僕たちも日本の文化を知り、自分たちの文化も知ってもらうことが大切だ。そのためには、「嫌だから」、「面倒くさいから」と言う前に、自分の心を開かなければ始まらない。そしてその第一歩は、やはり日本語の勉強。みんな「年を取っているので無理」とか「仕事で時間がないから」などと言うけれど、言葉の勉強は継続しようとする気持ちの問題につきる。自分たちが言葉を学ばねば、自分たちのことを伝えようがないではないか。

一緒に住む以上、日本人ばかりに色々手伝ってもらっているのではなく、僕たちも僕たちの持っている良いものを日本の人に提供できればと思う。日本に住んでいて思うのは、建前や社交辞令が多いせいかとともストレスの

大きい社会だということ。僕らの仲間も日本に住んでいて、日本人病が移り、肩こりになった者もたくさんいる。だから日本人の人は、僕たちの大好きなダンスや笑い話などを伝え、社会のストレスを減らしてあげたい。少しでも僕たちの暖かい気持ちや人間的な触れあいを伝えることができればもっと楽しい社会になると思う。そして、日本の子どもたちには、勉強は学校だけではないこと、人と出会うこと、話をするすることで、人は学んでいく、ということ伝えてい。おもしろいもので、南米の日系社会には日本文化を大切にすることがまだ残っていたりするのだが、そのような文化への思いや人に対する敬意の心を、先進国の人々であっても忘れずに、生きていく上で大切にしたいと思う。

僕たち外国人は、祖国では色々な職業経験を持っており、能力や特技のある者も多い。だから日本でそのような能力を発揮できるようになれば、どんなに素晴らしいだろうかと思う。そしてもちろんそのためには、僕たちも日本語や日本の文化を勉強して、勇気を持って日本社会に飛び込まなければならない。これからの時代、日本人にとっても外国人にとっても新しい経験になるだろうが、勇気を出せば怖くない。最初は苦勞でも、積み重ねることで楽になり、楽しくなるはずだ。一人ずつ持っている世界は異なるが、それぞれを大切に、国籍に関わりなく心が通う楽しい社会作りのため、僕も一つの架け橋になりたいと思っている。